

2025年5月30日

# 小山田小

町田市立小山田小学校  
校長 倅田 隆良  
令和7年度学校だより 第3号

<http://www.machida-ty.jp/e-oyamada/>

実りの秋を願いつつ・・・

校長 倅田 隆良

明日は運動会が行われます。大型連休が明けてから、子供たちは運動会に向けて演技や競技の練習に励んできました。そしてついにその成果を発揮する時となりました。その学習活動を安全に行うために、教職員は熱中症や落雷等の事故防止に関する校内研修を行いました。不測の事態に対応するための知識や行動力を高める内容でしたが、学校の教職員が判断したり、実行したりすることの数の多さをあらためて感じました。だからこそ、チームとなって組織的な動きをすることが不可欠になるのだと強く思いました。もちろん、そのような状況にならないことが一番ですが、万が一に備えて、研修や研究の時間を作り、教職員一人一人の実践力アップを図っています。

## 【雷の豆知識～「雷鳴が聞こえたら・・・」】

昔は稲光から雷鳴まで数を数えて「まだ遠いから大丈夫」と考えたこともあったと思いますが、実は雷鳴が聞こえ始めた時点でその場所にも落雷の恐れはあり、早めに建物や自動車の中などに避難する必要があるそうです。また、稲光や雷鳴のほか、“黒い雲が接近してきた”や“急に冷たい風が吹いてきた”なども避難の判断目安になります。

そして「雷鳴が聞こえなくなって30分が過ぎた」が行動再開の目安とされています。

さて、本校の特色ある教育活動として地域と連携した小山田学習があります。先日、5年生が田植えをしました。子供たちは田んぼに足を入れた感触を味わいながら、豊作を願って苗を丁寧に植えていました。今の時代に、このような体験学習はなかなかできないことです。また、お米の価格高騰や今後の日本の農業の在り方等が毎日のように報道されている時に、自分たちの手で稲を育てることには大きな意味があり、その学習成果を多方面に広げ、深めていくことができると思います。

前述の「雷」の漢字は「雨」と「田」でできています。鋭い光は「稲光」「稲妻」と言います。「これは何か関係があるかも…」と思い、調べてみました。すると、『雷が多いと豊作になる』という言葉もありました。雷雨になれば、稲作に必要な水が豊富に供給されます。さらに、空気中の窒素は雷(=電気)が流れることで窒素酸化物になり、それが雨に溶けて降り注ぎ、田んぼの肥料になるそうです。

命を脅かす雷も、別の面を見れば稲作にとって大切な役割をもっていることを知りました。私たちがおいしくいただいているお米を育てるお手伝いをしているのです。

物事や事象をとらえる時には、一方的な見方、考え方だけでなく、違う角度からも見てみるのが大切です。

でも、明日は雷様にゆっくり休んでもらいましょう！